

令和7年度 平野北中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 平野北中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	94	54	45	5.5	7.4	学校	497
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	107	66.1	53.3	57.1	44.7	51.8	5.8	4.9	9.3	8.4	6.3
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	124	66.2	44.8	53.4	44.3	47.3	6.2	4.9	11.2	4.1	6.8
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	126	59.5	52.9	53.2	59.3	57.5	11.3	3.5	10.3	5.4	7.6
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	88	115.5	107.0	137.1	92.7
10月22日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	123	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	27.74	23.94	39.19	50.68	69.62		8.15	189.04	18.91	37.28
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	39.19	50.68	69.62		8.00	189.04	20.74	42.20
2年 女子	学校	28.26	21.53	46.99	48.57	53.09		8.92	186.24	12.87	53.12
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.53	47.96	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 平野北中学校中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○大阪市英語力調査(GTEC)において

<成果>

「読むこと」は大阪市と比較して、1.9ポイント下回った。

「聞くこと」は大阪市と比較して、3.2ポイント下回った。

「書くこと」は大阪市と比較して、9.3ポイント下回った。

「話すこと」は大阪市と比較して、5.7ポイント下回った。

<課題>

昨年度と比較して、リーディングとリスニングの得点が伸びた。CEFR A1レベル(英検3級程度)の英語力がついている生徒は学年の半数を超えており、大阪市の平均には至らなかったが、今年度の学校目標は達成することができた。

学年全体としては、高得点を取る生徒もいる中で、基礎的な知識が定着していない生徒がいるのが課題であった。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

<成果>

全国と比較して男子は、すべての種目において上回ることはできなかった。

全国と比較して女子は、握力3.11kg、長座体前屈0.97cm、反復横とび2.83点、20mシャトルラン2.49回、立ち幅とび19.8cm、ハンドボール投げ0.44m上回ることができた。

<成果>

全国体力・運動能力調査の結果において、本校男子は全ての種目で全国平均を下回った。日常的な運動習慣の定着や基礎体力の向上に課題がみられることから、体育授業の工夫改善や、日常的に体を動かす機会の充実を通して、体力向上に取り組む必要がある。

○中学生チャレンジテスト(1年)

【成果と課題】

<成果>

・国語

平均点は大阪府と比較して、3.6ポイント下回っており、特に思考力・判断力・表現力等の領域において府平均を下回る傾向がみられた。

・数学

平均点は大阪府と比較して、3.5ポイント下回っており、「数と式」の領域では府平均をやや下回る結果となり、基礎的な計算技能の定着に課題がみられる。

・英語

平均点は大阪府と比較して、7.7ポイント下回っており、聞くことおよび読むことの領域において、府平均を下回る結果となり、英語の内容を正確に理解する力に課題がみられる。

・社会

平均点は大阪府と比較して、5.9ポイント下回っており、基本的な用語の内容の理解はみられるものの、資料を読み取り考察する問題に課題がみられる。

・理科

平均点は大阪府と比較して、3.7ポイント下回っており、基本的な用語や概念の理解に加え、実験結果や観察内容をもとに考察する力の育成が必要である。

<課題>

1年生のチャレンジテスト結果から、基礎的な知識・技能の定着には一定の成果がみられるものの、思考力・判断力・表現力を問う問題において課題がみられた。

国語では、文章の内容を的確に読み取り、根拠をもとに自分の考えを表現する問題に課題が見られる。今後は、文章全体の構成や要旨を捉える指導を充実させるとともに、理由を明確にして説明する活動を増やしていく必要がある。

数学では、基礎的な内容の理解に個人差が見られ、思考過程を説明する問題や応用的な問題への対応に課題がみられる。基礎基本の確実な定着を図るとともに、考え方を表現する活動を取り入れた授業改善が必要である。

英語では、語彙や基本的な表現の理解に加え、英文の内容を読み取る力や自分の考えを英語で表現する力に課題がみられる。今後は、聞く・読む活動に加え、書く・話す活動を充実させ、言語活動の場を増やしていく必要がある。

社会では、基礎的な用語や内容の理解はみられるものの、資料を読み取りを考察する問題に課題が見られる。地図や資料、グラフなどを活用しながら考える学習活動の充実が必要である。

理科では、基本的な知識の理解はみられるものの、観察・実験の結果をもとに考察する問題や、科学的に説明する問題に課題が見られる。今後は、観察や実験を通して考える力や説明する力を育成する指導の充実が必要である。

これらの課題を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力の育成を意識した授業改善を進めていく。

令和7年度 平野北中学校中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(2年)

【成果と課題】

<成果>

・国語

平均点は大阪府と比較して1.7ポイント上回っており、文章の内容を読み取る力や、設問に対して適切に答える力が一定程度身についていると考えられる。

・社会

平均点は大阪府と比較して0.5ポイント上回っており、基礎的な知識の理解が一定程度定着していると考えられる。

・数学

平均点は大阪府と比較して1.6ポイント下回っており、基礎基本の定着とともに、問題条件を整理し考える力の向上が課題である。

・英語

平均点は、大阪府と比較して4.5ポイント下回っており、語彙や文法など基礎的な知識の定着に加え、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の各領域において総合的な言語運用能力の向上が必要である。

・理科

平均点は、大阪府と比較して2.4ポイント下回っており、基礎的な知識・技能の定着に加え、観察・実験の結果をもとに観察する力に課題が見られる。

<課題>

2年生のチャレンジテスト結果を府平均と比較すると、本校は2教科上回ることができたが、基礎的・基本的な学力の定着とともに、思考力・判断力・表現力の育成が課題である。

国語では、文章の内容を的確に捉え、根拠を基に自分の考えを表現する力の向上が課題であり、今後も言語活動の充実を図っていく必要がある。

社会では、資料や情報を多面的に読み取り、関連付けて考察する力の育成が課題であり、今後も学習内容の理解を深める指導の充実が必要である。

数学では、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と、思考力・判断力・表現力の向上が課題であり、今後も授業改善を進めていく必要がある。

英語では、語彙や基本文の理解を基に、読む・書く力を総合的に伸ばしていくことが課題であり、今後も言語活動の充実を図る必要がある。

理科では、観察・実験の結果を基に考察し、科学的に説明する力の育成が課題であり、今後も探求的な学習の充実が求められる。

これらの課題を踏まえ、基礎基本の確実な定着を図るとともに、授業において考えを説明する活動や言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を意識した授業改善を進めていく。